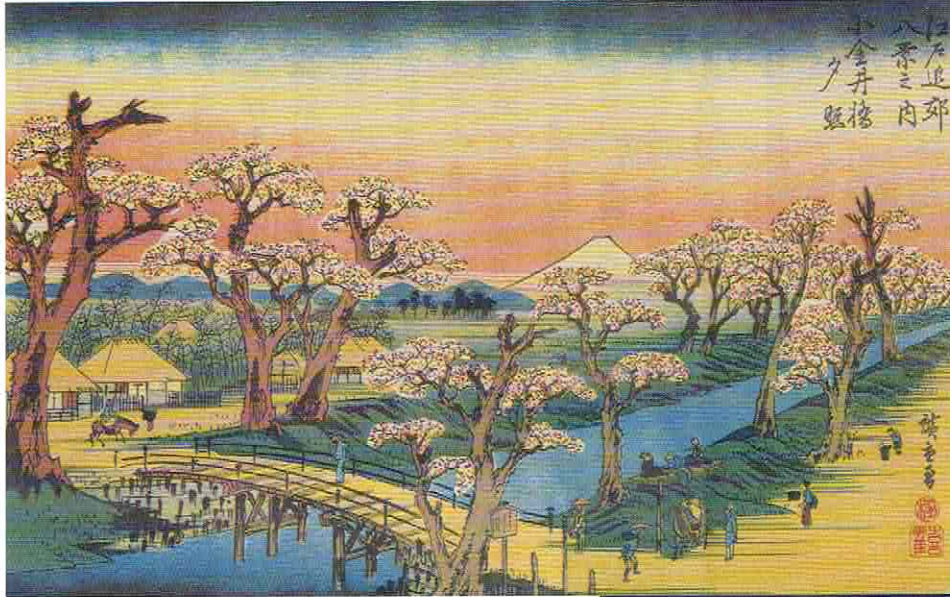


# 武蔵野の歌が聞こえる

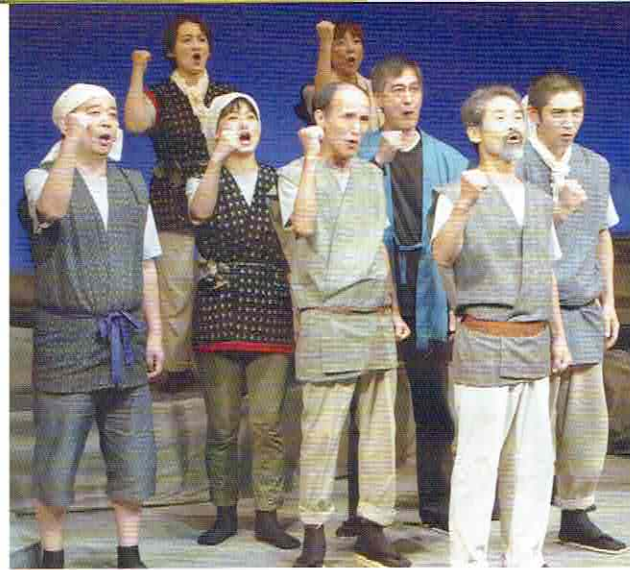
武蔵野を

協同の大地に変えた

川崎平右衛門



【江戸近郊八景の内 小金井橋夕照/歌川広重】  
 平右衛門が植えた小金井桜



2016年9月

2 (金) 19:00  
 3 (土) 14:00 19:00  
 4 (日) 14:00  
 5 (月) 19:00  
 6 (火) 14:00 19:00  
 7 (水) 19:00

開場は開演の30分前です

会場 現代座ホール

参加費 一般 3,000円  
 小中高 1,000円

会場入口で、スリッパに履き替えて頂きます  
 (スリッパはご用意しております)

各回80名の予約制です。事前にお申し込み下さい

NPO現代座事務所 TEL: 042-381-5165  
 FAX: 042-381-6987

NPO現代座ホームページ <http://www.gendaiza.org/>  
 川崎平右衛門プロジェクト <http://heiemon.org/>

協力：日本労働者協同組合連合会（ワーカーズコープ）センター事業団・「武蔵野の歌が聞こえる」上演サポーター  
 後援：小金井市・小金井史談会・小金井市商工会・小金井市商店会連合会・小金井市観光まちおこし協会

## 現代座会館へのご案内

〒184-0003 東京都小金井市緑町5-13-24

- \* JR中央線・東小金井、武蔵小金井より 徒歩13分
- \* CoCoバス(小金井市コミュニティバス¥100) 武蔵小金井北口より「北東部循環」で4分
- 「地蔵通り西」(3つ目)下車。 毎時 00, 20, 40分発
- \* 駐車場は有りません



# 武蔵野の歌が聞、こえる

江戸中期、日本列島は元禄大地震、宝永大地震、富士山大噴火と史上最大の災害に見舞われました。元禄バブルで弱体化した幕府は再建を進めることが出来ません。

十年後に八代将軍となった徳川吉宗が幕府立て直しのため、武蔵野新田の開発に取りかかります。けれど、相次ぐ飢饉や凶作で新田開発は壊滅的な打撃を受けます。このとき、開発責任者の大岡越前守忠相は多摩郡の名主・平右衛門に新田の再建を託します。

平右衛門は農民の中に眠る助け合いの心を生かし、復興を進めます。打ちひしがれた農民たちは次第に助け合いのよろこびに目覚め、自力で新田を復興させ、開発をやり遂げます。荒れ果てた原野はサクラの里に姿を変えました。農民たちの喜びの歌が聞こえてきます。助け合いは現代のわたしたちが立ち返る原点でもあります。



## 出演

今村純二    みきさちこ  
 黒澤義之    長谷川葉月  
 中村保好    東志野香  
 木の下敬志    矢川千尋  
 八木浩司    八木澤賢  
 石川秀樹    金島清史  
 長津宏夢

## ピアノ演奏

新井 紀子  
 松下 菊乃  
 岡田 杏珠



## 組合員自らの協同が原点

髙谷 栄一（農的協会アサイン研究所代表）

先日、東京都小金井市にある劇場・現代座で、合唱構成劇「武蔵野の歌が聞こえる」が再演され川崎平右衛門の行動と協同を何よりも大事にする心に感激を新たにしました。

木村快氏の脚本・演出で、話は武蔵野台地での新田開発を、多摩郡押立村（現在の東京都府中市押立）の名主であった川崎平右衛門が、農民の協同の力を引き出すことによって成し遂げたというものである。

（中略）

心打たれる場面はいくつもあるが、平右衛門が新田世話人に任命されて初めて行った、不足する水を確保するための村民による井戸掘りの話がその一つ。

井戸掘りに際して「皆の衆、これからは村で必要なことは江戸の商人に頼まないで、自分たちでやることにしよう」と、節約と自給を呼びかける。「いいか、力がある者は力を出せ。知恵がある者は知恵を出せ。心優しい者はみんなに優しくしてやれ」と諭すとともに、食べ物に事欠く村民に労働量に応じるだけでなく、老人や子どもにも一定量の麦を分配する。

こうして井戸の掘削を実現させた平右衛門のやり方を見て大岡忠相は「なるほど、同じ百姓でも上から命じられた時の百姓と、おのれがやろうとする時の百姓では力の出し方は何倍も違うのだな」と合点し、「新田開発の儀、平右衛門の心一杯に進めることを許す」と高らかに宣言する。

農協の自己改革が急がれる情勢にある。協同組合思想についてあらためて学ぶことも重要であるが、組合員や役職員の研修会などの機会を利用して本劇を鑑賞することをお勧めしたい。組合員自らによる協同が原点であることを納得し、たくさんエネルギーをもらえること必至である。

（日本農業新聞2015年9月11日「万象点描」より）